

## サプライズ「事実」は小説より奇なり」

- 平成22年度厚生労働省による人口動態統計調査結果が出た(厚労省HPを参照)。それによると日本人の、平成21年の年間死亡者数は114万人強(正確には1,141,865人)。そのうち644,000人が「悪性新生物(がん)と、心疾患、脳血管疾患」の原因。実に全体の約57%を占めている。
- さらに悪性新生物、いわゆるガンによる死亡者は344,000人でトップグループ。現在男性が二人に一人、女性が3人に一人がガンにかかると言われていていることから、この数字を目の当たりにしてあらためて「ガンの死亡率」の大きさに愕然とする。
- ちなみに交通事故による死亡者数はひところに比べて激減しており、平成21年中の死亡者数は4,914人。(警察庁統計数字参照)また平成21年中の自殺者数は警察庁の統計数字によると32,845人。「交通事故」と「自殺者数」を例にとって比較してもガンによる死亡者数が344,000人と断トツに多いことが分かる。
- また退院したガン患者の平均入院日数によると(平成21年厚生労働省調査)23.9日となっている。胃ガン、結腸ガン、肺ガンなど病気の種類によって長短があるものの、平成8年の平均入院日数46日に比べたら約半分に激減している事が判明。高度な先進医療医術の進歩により、患部を必ずしも切除する事なく、手術する方法の導入により「術後の入院期間」を短縮できた事も大きな要因と推察できる。
- ガンの死亡を回避するには「特効薬」の発明しかありません。しかし定期的な自己健診による早期発見をする事によって、「早期治療」が可能であることが明白である。しかも高度先進医療(重粒子線治療や陽子線治療など)を施せば治癒する事もあります。(※セカンドオピニオンシステムによるドクターと治療施設の紹介制度)

エコー保険(株)

コラムニスト 松浦 則雄